一般社団法人 福井県作業療法士会
FUKUI ASSOCIATION OF OCCUPATIONAL THERAPISTS

Vol.2
2023年度

福井県作業療法士会ニュース 見える！伝える！繋がる！

すいせん

CONTENTS

巻頭言 …… 1
制度対策局の取り組みと今後の展望について …… 2
万里一空 …… 3
第10回福井県作業療法学会のご案内 …… 4
「東海北陸リーダー養成研修会」参加報告 …… 5
リレー随筆 …… 6
幅広い分野でご活躍されている作業療法士のご紹介 …… 7
新入会員紹介 …… 8

巻頭言

楽しくわくわくする県士会に向けて
～士会活動のご報告とご協力のお願い～

一般社団法人福井県作業療法士会 副会長
医療法人 嶺南こころの病院
岡 本 利 子

皆さんの職場ではチーム内で、または他職種間でうまく対話ができていますか？「心理的安全性（エイミー・C・エドモンドソンが 1999 年に提唱）」が高いチームでは、メンバー同士が健全に意見を戦わせ、生産的で良い仕事をすることに力を注げ、チームの学習が促進され成長すると言われています。エドモンドソンは、対人関係のリスクを大きく 4 つのカテゴリーに分けて整理し、これらのリスクを避けるために人の行動が狭小化することを示しました（図 1）。また、このような対人関係上の罰や不安が「ない」状態を目指すのではなく、①話しやすさ、②助け合い、③挑戦、④新奇歓迎、という 4 つの因子が「ある」状態を目指すことが重要とされています（日本人の特性に合わせた心理的安全性の研究；ZENTech 社）。

福井県作業療法士会は、前期より「楽しくワクワク」する県士会を目指しており、今年は理事会主催で福井県学会を行うという初めての取り組みにも挑戦しています。心理的安全性の因子で言うと、①②をベースに③④の新しいアイデアが出され、それを皆で協力して一つ一つ進めているところです。

さて、我々作業療法士の職能団体である日本作業療法士協会の組織率（協会員数／有資格者数）が 56.8%（2022 年）と年々低減しています。「協会は旗を振り種を蒔く、県士会はそれを育てる」と役割分担をしながら、2 つの階層の職能団体は作業療法士の社会的地位を守っています。社会的地位とは社会の作業療法士に対する認識であり、作業療法士の質の担保はもちろん、診療報酬の算定職種であるか等、雇用の源となる部分への働きかけも含まれます。（例えば、作業療法士は現在両立支援（病気や障害をもちながら働く支援）の診療報酬を算定できないが、協会が算定できるよう働きかける、等）つまり、我々が作業療法士という専門職として働く限りは協会の恩恵を受けているのです。もし入会のメリットを問われる機会があれば、会員一人一人がこのことをお伝えいただけると幸いです。

最後に、福井県士会は今後も、心理的安全性をもちながら「楽しくワクワク」する県士会に向けた活動を続けていく所存です。どうか皆さん、県士会の一員としてその活動に注目し、参加し、忌憚のないご意見をください。皆さんと対話をしながらより良い県士会活動を提供していけると嬉しいです。

「無知」だと思われたくない→必要なことでも質問をせず、相談をしない
「無能」だと思われたくない→ミスを隠したり、自分の考えを言わない
「邪魔」だと思われたくない→必要でも助けを求めず、不十分な仕事でも妥協する
「否定的」だと思われたくない→是々非々で議論せず、率直に意見を言わない

図 1　対人関係のリスクと行動の狭小化

制度対策局の取り組みと今後の展望について

一般社団法人福井県作業療法士会 制度対策局局長
有限会社なるざ リハビリスタジオなるざの森
前　田　真　弘

〈はじめに〉

福井県作業療法士会会員の皆さん、いつも県士会活動へのご理解・ご協力有難うございます。令和５年度から制度対策局の局長ならびに地域活動推進部の坂井奥越ブロック担当理事に任命されました。

県士会の会員であって、どこかの部や委員会に所属し、その部の活動を行っている方なら、県士会活動の意義が大なり小なり理解できると思います。しかし、所属以外の部の「活動」まで理解できているか？というと難しいのではないでしょうか？また制度対策局の中にある「地域活動推進部」や「地域包括ケア推進部」は県士会の中でも比較的新しく出来た部であり、どんな活動を行っているかを知らない方も多くいると思います。今回、それぞれの部の活動を簡単に紹介し、局の働きが会員の皆さんにどう影響するのか、今後の展望を交えお伝えします。

〈制度対策部〉

作業療法士の職域に関わる社会保障制度において､日々配信される情報の管理や定例で改変される医療 / 介護の診療報酬の内容把握を会員の皆さんへ周知する部です。

〈地域包括ケア推進部〉

国は 2025 年を目途に地域包括ケアシステムの構築を目指しています。この地域包括ケアシステムとは、「重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される」としています。

上記に挙げられたどの分野にも作業療法士は携わっており、地域包括ケアに対応できる作業療法士の教育体制の検討、人材の育成、人材把握を行っている部です。

〈地域活動推進部〉

福井県６域（坂井、奥越、福井、丹南、二州、若狭）に分け、各ブロックに所属している作業療法士の人材把握を中心に行い、各ブロックでの横のつながりを強化すること、各市町から受けた依頼に対応できる作業療法士の選定を行っている部です。

〈今後の展望〉

私が作業療法士を目指したきっかけは、自身の怪我でリハビリの世界を知ったことでした。そのため作業療法士免許を取得し、自分が担当する患者や利用者の心身機能や生活場面に介入することが、「私の作業療法士像」だったと思います。おそらく、この記事を読まれている大半の方は、作業療法士として「対象者」がおり、その方に寄り添い、その方の生活を現状よりも少しでも良くしようと毎日を過ごしていることでしょう。ただ、これから我々作業療法士を取り巻く環境は大きく変わっていくことと思われます。

人口ピラミッドに変化があることは皆さんお気づきであると思います。団塊の世代が増え、生産年齢人口が減る世の中、将来３人で１人を背負う～１人が１人を背負う時代がそこまで来ています。作業療法士に求められていることは、対象となる方の重度化予防や自助互助の促進です。また、地域包括ケアシステムの構築でも述べた一体的なサービスの提供に必要不可欠な多職種の連携です。「地域ケア会議」に参加し、作業療法士として発言された方もいらっしゃると思いますが、１人の対象者に対して「どうサービスを提供するか？」の際に求められるのが「各専門家からの意見」です。この意見を述べるために必要な知識を得るためには、普段の作業療法士としての臨床だけでなく、広く地域について・制度について知る必要があると思われます。そして、制度対策局が担っているのがまさに上記に挙げたことだと思っています。

制度対策部では、「トリプル改定」に向けた準備を進めています。地域包括ケア推進部では、「地域包括ケアに資する人材育成」に向けた教育プログラムの準備、地域活動推進部では、福井県 17 市町に作業療法士を配置する準備を進めています。これらは県士会の動きではありますが、日本作業療法士協会の動向を把握しながら、協会＝士会の動きが一体的になるよう、連携しながら取り組んでいます。

〈さいごに〉

今まで述べてきたことは、県士会における「制度対策局」の役割や今後の話であり、他の部局も会員の皆さんのために尽力頂いています。お願いしたいことは、様々な活動において主役は「会員ひとりひとり」です。目の前の対象の方に行う作業療法に加えて、福井県に対して・国に対しても「あなた」の作業療法への取り組みを必要としていることを分かって頂けたら幸いです。今後とも県士会へのご理解・ご協力をお願い致します。

万里一空

「万里一空」と題し、県士会の各ブロックにおいて活躍されておられる方々をご紹介させて頂きます。「万里一空」とは、「ひとつの目標に向かって努力し続けること」、「目的、目標、やるべきことを見失わずに励み、頑張り続けること」という意味を持っています。県士会活動の魅力の一つに、様々な方と繋がりを持てることがあります。各ブロックで活躍されている方々を知って頂き、繋がりを持つきっかけになりますと幸いです。

（編集部）

坂井・奥越ブロック

独立行政法人国立病院機構　あわら病院

小林　純也

私は神経筋疾患を対象にコミュニケーション支援を中心とした作業療法を行っています。

コミュ支援というと多くの分野で携わることのない領域かと思います。私も意思伝達装置等のツールは詳しく知りませんでしたし、職場には OT の先輩がいない為、最善のリハビリを提供できているかよく悩みました。しかし、意思疎通が図れた患者さんの安心した表情を見たり、練習してきた方法で感謝の言葉を聞けた時にはとてもやりがいを感じています。

県士会では以前まで広報部として活動し、そこで繋がったＯＴに相談に乗っていただくこともあり、士会での活動は重要に感じています。

OT は患者さんの人生に関わる責任ある仕事ですが、その分、患者さんと多くの喜びを共有できます。これからも患者さんに必要とされる OT になれるようベストを尽くしていきましょう。

福井ブロック

こぱんだ訪問看護ステーション

渡辺　和臣

訪問看護業務を行っています。医療的ケアが必要な小児や難病、終末期やがん、介護保険など幅広い方のリハビリに携わっています。様々なフェーズに応じた連携や、専門職としての対応が求められ、とてもやりがいを感じております。

県士会活動では興味のある分野の研修、学会等に参加させて頂いています。自己研鑽だけでなく、様々な年代や分野で働かれている OT の方と面識が持て、職場外での繋がりが増えるきっかけになっています。

地域で OT の活躍する場は増えています。しかし実際のところ、在宅場面で OT は“何が出来るの？”、“これは OT に依頼？”と具体的なイメージがなされていない事もよくあります。「その人らしさ」「生活の個別性」を引き出せる OT の素晴らしさを、どんどん発信していってほしいと思います。

丹南ブロック

地域医療振興協会　公立丹南病院

前田　記里

公立丹南病院での業務内容は、急性期リハビリテーションを実施しています。入院、外来患者へのリハビリテーションのほか、チーム活動や委員会活動を通して多職種、リハビリテーション室内での意見交換を行うことができる働きやすい職場です。また、必要があれば退院前に自宅や退院先へ訪問も実施しています。

県士会の活動に参加することで、職場のセラピスト以外の考え方や仕事への心構えなどについて伺う機会が得られました。今後は研修会などに参加して、興味のある分野をみつけていきたいと思っています。

作業療法士となってまだまだ経験が浅く、みなさんに教授していただくことがたくさんあると思います。今後とも、どうぞお願いいたします。

二州・若狭ブロック

杉田玄白記念公立小浜病院

吉村　真樹

普段は小児療育センター棟で外来を担当しています。休日は病棟にあがるか、少年野球チームのトレーナーをしています。臨床は約 20 年になりますが、県士会との距離感は若手の頃に比べると正直少し遠く感じるようになっていました。

ここ数年で、特別支援教育委員会、嶺南ブロックの部長に就任させて頂いてからは少しずつ歩み寄っていますが、ふとこの違和感は何かなと考えていました。

新人研修を終えると、各々の領域で専門分野の研鑽に励むと思います。オンライン全盛の今、受けたい研修は探せば見つかる時代になりました。個人で完結できるようになるタイミングで県士会との距離感が生まれていくのではないでしょうか。

嶺南ブロックの部長として、嶺南地域のＯＴが県士会から離れて行かない体制作りを進めていきたいです。

第10回福井県作業療法学会のご案内

第10回 福井県作業療法学会
～つどえ、確かな技。つなげ、作業療法の輪。～

第10回福井県作業療法学会 学会長
学校法人 新田塚学園 福井医療大学
下 川 幸 蔵

私が作業療法士になって、20年が経過しようとしています。時代の移り変わりとともに、作業療法に求められるニーズも変化・拡大してきました。その時々で頭を悩ませ、「これで良かった？」「これが作業療法！」「えっ？ちがう？」「作業療法って何？」「こうかもしれない…」「これだ！」、そして「作業療法って素晴らしい」と、胸を張って言えるまでになったと自負しています。ひとえに、これまで関わらせていただいた多くの対象者の方や作業療法士の皆さん、関係者の皆さん、そして学生さんが、私に「作業療法」を考えさせてくれたおかげだと思い、心から感謝しています。

作業療法学とは、理論や技術の追求だけに留まらず、実践を伴う実践科学という学問であると考えます。要するに作業療法の「理論と実践」が乖離し、理論がなく「これまでこんな風にやってきたから次もこれで…」とか「頭ではわかっているけど、実際はできない」では本末転倒なのです。対象者のニーズに基づく質の高い作業療法を提供する専門職としてのあるべき姿は、常にそれらを追求し続けることであると思っています。

私自身が臨床の現場で働いている時、「対象者への介入のキーワードは分かるが、具体的にどのようにすれば良いのかわからない」とか、「効果があったが、それがなぜか分析できない」という切実な苦悩がありました。加えて、日々の業務に忙殺され、本来の作業療法士としてのあるべき姿と実務が乖離していることに強い葛藤を感じていたことを記憶しています。
※当然、今もその苦悩や葛藤から逃れることはできていませんが…

皆さんも少なからず、私と同じ経験をしたことがあるのではないでしょうか。作業療法の確かな技術を持ち、その魅力に惹かれている同志が集い、次世代を担う作業療法士に伝承する機会が「学会」だと思います。また、それに加え「飲みニケーション」もそれを助けます。
※私は古い時代の人間でして、飲みニケーションの力を今でも信じています…八海山に育てられました…

第10回福井県作業療法学会は、令和6年3月16日（土）にあわら温泉白和荘、あわら市商工会芦原支所で開催します。この数年、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での学会を実施することが難しく、ICT技術を活用した開催を余儀なくされました。しかし、令和6年現在、私たちの生活も徐々に元に戻りつつあります。これまでの感染予防対策や運営の工夫、コロナ禍で得た技術を活用し、with コロナの状況下で対面の学会を開催します。

私たち作業療法士は、対象者の生活の質を向上させるために、個別のニーズに合わせた最新の知見に基づく、最良の実践を提供しなくてはなりません。確かな技を持つことは私たちの使命とも言えます。

私たち作業療法士は、職能団体としてのコミュニティを築き、協力し合うことが必要です。共に力を合わせ知識や経験を共有し、さらなる作業療法の発展に寄与します。「作業」の専門職として、日々変化する社会に貢献できるよう、共に語らい、共に学び合い、共に成長していく機会を持つことは重要です。

そこで本学会のテーマは「つどえ、確かな技。つなげ、作業療法の輪。」としました。学会の原点に立ち返り、作業療法士が集い、垣根を越えてその技について議論し、作業療法の魅力を再認識できる場となることを期待します。福井県民の健康に貢献する作業療法の発展、会員の皆様の研鑽の場となるよう、特別講演や各種セミナーを企画します。多くの一般演題(口述・ポスター発表)への応募と、学会への参加をお待ちしています。本学会で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

最後に、この学会の趣旨に賛同し、共に歩んでくださる皆様、そして普段から努力と実践を積み重ねている会員の皆様に、心から感謝申し上げます。共に確かな技を高め、作業療法の輪を一層強化し、私たちの使命を果たしていきましょう。

東海北陸リーダー養成研修会 参加報告

今後のリーダーに求められること

医療法人健康会 グループホームいちご和えの里 岡倉 勇斗

2023 年 11 月 26 日に東海北陸リーダー養成研修会に参加させて頂きました。この研修は『理事・部長を担うことのできる人材を育成する、協会・県士会の活動内容や重要性を理解し、その発展について考える、現場において活用のできる組織論・リーダー論について学ぶ』という目的にて開催されました。オンライン開催ではありましたが、東海北陸ブロックの作業療法士の方々と交流を図れる貴重な場となりました。内容としましては、日本作業療法士協会の山本伸一会長と静岡県作業療法士会理事の大石裕也先生の講演の他、グループワークや意見交換も行いました。

山本会長には「これからの OT、臨床そして県士会に求められるリーダーとは」というテーマで講演頂きました。会長ご自身が行ってこられた組織運営の振り返りや意識してこられたことなどを、ご自身の経験・実例を交えながらお伝え頂きました。組織運営に関しては「組織の 7S（戦略・組織構造・システム・スキル・人材・運営スタイル・共有の価値観）」に分け詳しく説明頂きました。講演の中で、常にスタッフの意見に耳を傾け寄り添う山本会長の姿勢が印象的であり、その中でも「人の見えない所で頑張っている職員を言語化して表彰すると、その職員は非常に喜び、さらに成長する」という言葉は非常に印象的でした。リーダーとして組織運営を行う際には、明確なビジョンが必要であり、それを共有して実践するためには、言い合える仲間で情報共有し、お互いを支え合うことが重要であると話されていました。役職者は、偉いというわけではない。意識してほしいのは、マネジメントをする人でありマネジメント能力がある人だということ・スタッフ一人一人の声に耳を傾け大切にすることであると伝えて頂きました。

また職能団体として厚生労働省やこども家庭庁などの関係省庁に働きかけを行い作業療法士の身分保障・処遇改善のために活動されてきたことなどを説明頂きました。「作業療法士として働き続けるためには作業療法の認知度を高めることと職能団体としての渉外活動が必要であり、そのためには組織率の強化が必要不可欠である」という御言葉を頂きました。

大石先生の講演では「医療現場におけるリーダーシップとマネジメント」というテーマで、なぜ医療現場にリーダーシップやマネジメントが必要なのか？という説明をして頂きました。リーダーシップとは共通の目的を達成するための社会的プロセスであり、組織が次にステップアップしていくためのマネジメントとは切っても切り離せない関係にある。組織の中ではリーダーシップとフォローアップ、マネジメントの 3 つを使い分けることが重要であり、フォロアー（チームの一員）を経験しリーダーになり、リーダーはフォロアー時の経験を通して優れた考えが形成されていくとのことでした。大石先生の講演で特に印象に残った内容として、組織内にて質を高めるための情報共有としてスタッフを同士として認める・目的を共有する・メールではなく対話をする・自分も一員として認めてもらう・雑談よりビジョンを語り合うことが重要であると言われていました。

今回の研修会を通して、他県士会の方々と意見を交わすことや山本会長・大石先生の御講演を聞き、大変良い刺激を受けることが出来ました。私自身としましても、作業療法士として何かできるのか・何をすべきなのか考える場となりました。そして、まず個人として行えることはこれからの臨床にて関わる一人一人と丁寧に向かい合い成果を出し、作業療法士として認められていくことが重要であると感じました。最後に、貴重な研修会に参加させて頂きありがとうございました。

特別企画

福井県作業療法士会の足跡を辿る

―役員経験者から会員に向けたメッセージ―

今回のリレー随筆は、たけとう病院デイケア野向の舎の中村こと美さんに執筆頂きました。中村さんは当県士会の認知症対策委員会の委員長を務めておられ、長年この分野でご活躍されています。これまで地道に重ねてこられた努力と、中村さんの熱い思いにぜひ触れていただけたらと思います。（編集部）

第７回

認知症支援⇒これからますますOTが求められる分野かもしれない！

たけとう病院 デイケア野向の舎　中　村　こと美

皆さまは2023年６月に認知症基本法という法律が成立したのを知っていますか？近年の認知症に関する施策は、認知症本人ワーキンググループ（希望大使）の皆さまの発信により大きく前進しており、2019年には認知症施策推進大綱（共生と予防）が策定され、2023年６月には「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」という法律が成立しています。国は認知症の人もそうでない人もお互いに支え合いながら、尊厳を持って希望を抱いて安心して過ごせる社会の実現を目指しています。適切な支援があれば認知症の方も地域で過ごすことができ、多職種と共にOTも専門職としての関わりが求められています。

早いもので、自分が認知症対策委員会に関わり始めたのが2013年。就職してからずっと認知症の方に関わってきたご縁もあり、軽い気持ちで引き受けた依頼が、現在も継続している状況です。対策委員会では、主に会員の認知症への理解や対応力を高めるために、認知症や認知症予防に関する情報の把握・勉強会・研修会等を企画し、今まで色々な講師の先生方をお招きして研修会などを開催してきました。現在のメンバーは13名で病院・施設・地域など所属先は様々ですが、長年熱い思いで認知症に関わっているメンバーが多く、いつも刺激を受けると同時に、この素敵な仲間に出会えたことは自分の財産だと思っています。

福井県の対策委員会の現状はこのような感じですが、他県士会では、認知症に関するステップアップ講座を設けて地域で活躍する人材を育成している所や、スタンプラリーやVR（認知症体験）などを用いて啓発活動を行っている所などもあります。このような47都道府県の認知症に関する取り組み情報は、毎年９月のアルツハイマー月間に提出しており、協会のホームページにも掲載されているので、ご興味のある方はぜひご覧頂けたらと思います。また、参考までに「福井県　認知症」と検索すると、県が取り組んでいる認知症についての様々な情報（相談窓口・予防情報・地域資源など）も得られるので、ぜひご活用頂けたらと思います。

最後に現在、自分が住んでいる地域の包括支援センターとは連携が取れており、９月の認知症フェアにブースを出展させてもらい啓発活動をしたり、今後チームオレンジへの協力の相談も受けている状況です。もしかしたら他にも行政と連携をして動いておられる方がいるかもしれません。今後は情報を共有し、少しずつでも県内のあちこちでOTも協力した認知症の方も家族の方も安心して暮らせる社会の実現に向けた地域支援活動が拡がると良いなと思います。もし対策委員会で一緒に活動しても良い方やご興味のある方がおられましたら、お気軽にお問い合わせお待ちしております。

＊チームオレンジ＝近隣の認知症サポーターがチームを組み、認知症の人や家族に対する生活面の早期から支援等を行う取り組み。

幅広い分野で

ご活躍されている作業療法士のご紹介

県士会員の中には、作業療法士の資格を活かして幅広い分野で活躍されている方々がおられます。今回ご紹介させて頂く川端さんは、臨床で作業療法士としてのキャリアを開始され、現在は教員として作業療法士の育成や研究に従事されています。本稿では、ご自身のこれまでの歩みを詳細に語って頂いていますので、会員の皆さんにとりましてもキャリアを考えるきっかけになりますと幸いです。

（編集部）

教育と研究と私

福井医療大学保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
福井医療大学大学院保健医療学研究科神経系リハビリテーションコース
川端　香

今回、教育者・研究者という立場から本稿を執筆することになり、改めて自分史を振り返ってみました。まず､理学療法士になりたかったはずが、センター試験失敗によって作業療法学専攻に入学しました。お世辞にも作業療法士に対する情熱や向上心があったとは言えず、平々凡々な学生生活を送りました。国家試験勉強も真面目にしなかったため、合格ラインぎりぎりで滑り込んだほどです。その後、臨床現場で作業療法をしたかったはずが、人事異動で教員となり、大学院で研究指導まで行うことになってしまいました。

なんだか“オモッテタノトチガウ”人生です。

作業療法士５年目の 2005 年、初めて学会発表をしました。当時の上司から「そろそろ発表しなさい」という圧を感じ、病棟のナースステーションで査読医を捕まえて「テーマはないですけど、発表したいです！」と頼んだことを覚えています。日々の診療をしながら慣れない学会発表準備は大変で、お風呂に入りながら抄録を書いたり、夜遅くにリハ室でポスターを印刷したりしました。それでも、学会発表後の達成感は活力となり、査読医から受けた指導・助言は、私の研究の土台を形成しています。

多忙ながらも充実した日々を過ごしていた 2006 年、福井医療技術専門学校（現、福井医療大学）への異動が決まります。たった６年しか臨床経験がない教員は、学生にとって、ただのお姉さん的立場でしかありませんでした。教員になって８年経過した 2014 年、初めて本格的な学術論文として症例報告を執筆しました。学術誌に論文を投稿する度に、ことごとく不採択にされ、査読者からの厳しいコメントに傷つき、研究者としての適性がないと烙印を押されているような感覚に陥りました。自己肯定やモチベーションが低下し、研究から遠のいた時期もありました。博士号を取得するまでの５年半は、30 代後半の衰えた頭と身体で乗り越えるには、健康や家庭の犠牲を伴い、非常に辛く苦しい道のりでした。自分の年齢を何度憎んだことか。静かに見守ってくれた家族、上司、同僚には感謝しかありません。

教育歴も 15 年を超え、お姉さん的立場から脱却した今、学生には専門職としての責務を果たしてほしいと伝えています。ひと昔前とは時代が異なります。国家試験も格段と難しくなり、大学院に進学する学生も増え、専門的知識のレベルは確実に上がっています。情報化社会となり、エビデンスを求められる現代において、臨床経験はもちろんのこと、根拠に基づく実践と省察が必要だと感じています。臨床経験が未熟な自分の役割は、根拠に基づく思考ができるような学生を育てることかな…と思う今日この頃です。“努力は時に才能を凌駕する”と信じ、自分が置かれた環境で、心身のバランスを保ちながら自分に出来ることを継続したいと思います。パッションや信念はないタイプですが、教育者として、研究者としての役割を果たし、若い方達が何か感じてくれたらいいなと思っています。

FRESHERS2023

新しい仲間を紹介します！

①出身校
②勤務先
③作業療法士を目指したきっかけ・理由は何ですか？
④尊敬している人とその理由を教えて下さい。

大久保希実（おおくぼのぞみ）

①福井医療大学
②社会医療法人 寿人会 木村病院
③高校の担任の先生に医療の道を勧められ、OT に魅力を感じ目指すようになりました。
④病院の先輩方　先輩たちから学ぶことがたくさんあり、私も先輩たちのような OT になりたいからです。

大谷　舞（おおたに　まい）

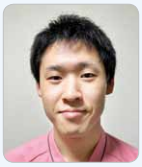
①広島大学
②医療法人厚生会 福井厚生病院
③ひと相手で好きなことも生かせるから。
④新卒時の同期、先輩。仕事に限らず沢山のことを教わった。

景山　綾介（かげやま　りょうすけ）

①福井医療大学
②社会医療法人 寿人会 木村病院
③人によりそう仕事をしたかったから。
④黒川主任　難しい事でも簡単にさばき、的確な指導をしてくれるから。

多賀　真珠（たが　まこと）

①平成医療短期大学
②光陽生協病院
③親の仕事の関係で興味を持ちました。
④母　仕事と家事を両立し、話もたくさん聞いてくれるので欠かせない存在です。



築紫　瑛生（ちくし　えいせい）

①福井医療大学
②社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 福井県済生会 介護老人保健施設　ケアホーム・さいせい
③小さいころから人の役に立ちたい、人と関わる仕事がしたいと思ったことがきっかけです。
④福井医療大学の下川幸蔵先生です。大学時代に作業療法について様々なことを教えて頂いたからです。

塚﨑　友子（つかさき　ともこ）

①金沢大学
②医療法人 池慶会 池端病院
③学生時代に母の通院に付き添った際、この仕事を知り目指すことになった。
④米倉涼子さん　一つ一つの仕事に真っ直ぐ向き合い、努力していく姿勢が素敵であり、自分もそうありたいと思ったから。

橋本　沙彩（はしもと　さあや）

①福井医療大学
②医療法人厚生会 福井厚生病院
③興味があり、調べていくうちに魅力的に感じた。
④両親　人柄や、毎日的確に仕事や家事をこなす姿に尊敬します。

藤井　洋輔（ふじい　ようすけ）

①福井医療大学
②社会医療法人 寿人会 木村病院
③部活のトレーナーの方からお話を聞き、目指すきっかけとなりました
④井上尚弥選手　どこまでも高みを目指して、上り詰めていく姿を見習いたいと感じるから。

水上　乃杏（みずかみ　のあ）

①福井医療大学
②社会医療法人 寿人会 木村病院
③祖母が入院した時にこの仕事を知り、目指すことになった。
④母　仕事と家庭をこなしながら、毎日明るい母を尊敬している。

福井県作業療法士会
Instagram
登録・ご活用下さい

登録方法について
① Instagram の無料アプリをダウンロード。
▶ iPhone の場合は、「App Store」
▶ android の場合は、「Google Play」
からインストール。
② インストール後、「新しいアカウントを作成」して下さい。

フォローはこちら
@FUKU.OT

新人さんからベテランの方、たくさんのフォローをお待ちしております！

一般社団法人 **福井県作業療法士会**
https://www.fuku-fuku-ot.jp/
〒910-0101 福井市つくし野2丁目107番地
TEL：(0776) 55-7001　FAX：(0776) 55-7002
編集担当 / 編集部理事：清水 雅浩